

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版
2020年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 中学校第3学年

日本の社会保障制度と税制度—少子化問題について考える—

授業者 阿部 哲久

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 社会科公民的分野 学習指導案

指導者 阿部 哲久

日時 令和3年1月29日(金) 第1限 8:40~9:30
場所 第2社会科教室
学年・組 中学校3年A組41人(男子19人 女子22人)
単元 日本の社会保障制度と税制度

目標

1. 日本の社会保障制度の特徴と課題を理解している。(知識・技能)
2. 幸福・正義・公正などに着目してより良い解決策について考察している。
(思考・判断・表現)
3. 自ら課題を見つけ解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

指導計画(全4時間)

第一次 少子化問題について考える 1時間(本時 1/4)
第二次 日本の社会保障制度と税制度 3時間

授業について

日本の社会保障について考える単元の導入として設定した。少子化問題は、社会保障や地域社会の持続性とも関わって、重要な問題である事が広く社会的に認識され、様々な議論が続けられてきた。この問題解決の難しさは、政治学や法学が追究してきた「公正さ」の例外とされてきた私的領域である「家族」の問題であることも原因とのひとつであり、社会学的な分析が有効な問題であると言える。指導要領の改訂ではこれまで「効率と公正」や「希少性」など法学や経済学に基づく見方・考え方が導入されてきたが、社会的論争問題を理解する上で重要な社会学固有の見方・考え方は明確には意識されていない。本授業では、授業全体は高校の新科目「公共」で示された選択・判断の手掛かりに基づいて社会的な課題について議論を行う構成としつつ、資料の読解などを通じて「私たちは社会の中にあって、自由な意思に見えるものも社会の影響を受けている」「社会は思い通りには動かさないが、意図的に動かせるものでもある」という「社会学」固有の見方・考え方にも触れさせながら社会的課題の解決に向けた議論をさせることで「社会学の見方・考え方」を獲得させることを目指すものとした。

題目 少子化問題について考える

本時の目標

1. 少子化の原因と対策、課題を理解している。(知識・技能)
2. 幸福・正義・公正などに着目してより良い解決策について考察している。(思考・判断・表現)

本時の評価規準(観点/方法)

1. 少子化の原因と対策、課題について資料に基づいて理解している。
(知識・技能/ワークシート)
2. 幸福・正義・公正などに着目してより良い解決策について考察している。
(思考・判断・表現/ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
少子化問題について知る 少子化問題の整理	○少子化がなぜ問題か理解する。 ○少子化の原因と対策を整理する。 ・夫婦あたりの出生数減と未婚化の2つに整理できる。 ・そこから導かれる対策は、①夫婦の子どもを増やす、②結婚を増やす、③結婚していない人の子どもを増やす、になる。 ・少子化の主因は結婚の減少である。	○必要な対策について直観的な意見を書かせる。 ○夫婦あたりの出生数減と未婚化の2つに整理できること、そこから対策も整理できることに気づかせる。
少子化対策の吟味	○①②③についてそれぞれ代表的な議論を検討する。 ・結婚をめぐる判断の背後には女性の幸せは男性で決まるといふ社会の考え方が影響している。 ・米と異なり妊娠後結婚が増えた後も婚外子が増えなかった背景にも同様の影響が考えられる。	○資料を適切に読み取ることができるようになる。 ○私たちの自己決定が社会の影響を受けていること、一方で社会も変化していることに気づかせる。
少子化対策の構想	○グループで自分たちなりに少子化対策を提案する。 ・豊かな社会と子育て負担増大 →教育無償化等（対策） →人口転換 逆再分配（課題） ・共働きのしにくさ →育休、保育所 →期待値の上昇 ・不安定雇用の若者の増大 →雇用対策＝正社員 →女性への依存 ・伝統的家族観、ジェンダー観 →海外では家政婦や公的雇用 →格差の利用、性別職務制度	○他人の幸福への介入と個人内の正義の関わりについて考えさせる。その際、どちらの立場も幸福も正義も根拠になり得る難しさに気づかせる。また、社会意識との関わりについても検討させる。
構想の発表	○構想したことを発表する。 ○発表への反応をふまえてワークシートを整理する	○評価規準に基づいてコメントし振り返りにつなげる。
備考 主な参考文献 内閣府『少子化社会対策白書』令和二年版、筒井淳也『結婚と家族のこれから』光文社新書、阿藤誠「少子化問題を考えるー少子化の人口学的メカニズムを踏まえつつー」『医療と社会』ほか		

実践上の留意点

1. 授業説明

公民科・社会科公民的分野は法学、経済学、倫理学など様々な学問領域を基盤としている。中学校公民的分野では近年主に法学を基盤としたいわゆる法教育の知見が導入されており、前回の指導要領改訂で導入された「対立と合意」「効率と公正」という見方・考え方は代表的なものである。また新指導要領では新たに見方・考え方として「希少性」「分業と交換」が示され、今後、経済学の知見を活かした授業が増えることが期待される。一方で、社会的論争問題を理解する上で重要な社会学の知見については、結論や資料を部分的に利用することはあっても「社会学の見方・考え方」そのものが明確に意識されることは法学や経済学などに比べ少ない。本授業では、授業全体は「幸福・公正・正義」という高校公民科の指導要領で例示された見方・考え方に基づいて社会的な課題について議論を行う構成としつつ、「私たちは社会の中であって、自由な意思に見えるものも社会の影響を受けている」「社会は思い通りには動かさないが、意図的に動かせるものでもある」という社会と個人の関わりの「緩い」捉え方を「社会学」固有の見方・考え方と定義し、これらを用いて社会的課題の解決に向けた議論をさせることで「社会学の見方・考え方」を獲得させることを目指すものとした。

少子化問題は、社会保障や地域社会の持続性とも関わって、重要な問題である事が広く社会的に認識され、様々な議論が続けられてきた。対策も多様に行われてきたが今のところ効果は限定的と言わざるを得ない。少子化の原因は大きく「非婚化」と「夫婦間でもうける子ども数の減少」で説明できるが、結婚率を上げるにせよ、夫婦間の子ども数を増やすにせよ、個人の幸福追求を尊重することと、社会の持続のための政策を推進することとを両立させることには困難が伴う。ともすれば、問題化した中学校長による「女子は子どもを二人産むべき」発言に見られるような、一方の立場から他者の幸福や自己決定に介入するような意見になりがちである。新科目「公共」で選択・判断の手掛かりとして示された、より多くの幸福を重視する立場と、動機を重視する立場という視点をういたとしても「幸福を重視し自己決定を尊重」vs「社会を守るという正義」とも、「多くの将来世代の幸福」vs「リプロダクティブライツ」とも根拠づけることができてしまう。この問題解決の難しさは、政治学や法学が追究してきた「公正さ」の例外とされてきた私的領域である「家族」の問題であることも原因とのひとつであり、社会学的な分析が有効な問題であると言える。

生徒の関心は比較的高い題材であるが、メディアでの議論や著作物の多くは過剰に危機感を煽ったものや、特定の海外を成功例として過大に取り上げたものなどが多い現状がある。「事実に基づく諸資料に基づいて多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすること（平成29年告示指導要領解説中学校社会編）」に資する資料を吟味して示し、選択・判断の手掛かりを活用した議論をさせるとともに、それら資料を読み解きながら、資料の選択や読解にも役立つ社会学的な見方・考え方を学ばせたい。

当初は2時間構成を考えていたが、1時間におさまるように実施した。その結果一方的な説明が多くなってしまった。本来であれば各資料についてそれぞれどのような資料が必要か考えさせたり、資料を吟味したりする時間を十分にする必要があった。解決策の事例についてのメリットデメリットについても十分に検討させる時間が必要であった。

2. 研究協議

質問者:移民政策に触れなかったのはなぜか。

授業者:一般的に行われている議論を専門知からとらえることをめざした。その中から移民政策という提案が出ればそれでも良いと考えた。

質問者:地理との違いが興味深かった。法, 制度, 財政が入るかどうかが公民との境界線だろうか。

授業者:事実を正確に記述する地理と価値判断に踏み込む公民の違いかもしれない。

質問者:資料提示が流れに乗って都合の良いものが提示された印象があった。

授業者:本来は主張に沿った資料提示に対して吟味する専門知のふるまいを学ばせたかったが, 1時間でやろうとしたためにそのような印象になったとしたら残念。資料や仮説そのものは多面的な検討を受けたものを用いている。

質問者:どの観点から考えさせるかが不明瞭だったのではないか。

授業者:研究授業としての狙いからは社会学的な見方として結婚の意味を相対化して捉え直すことにしぼるべきであった。

質問者:社会学的な「緩さ」とは何か, 意図的に社会を変えられるというより無意識的に社会を変えている部分にこそ注目すべきではないか。

授業者:法学や経済学とは異なり社会との相互作用を含んだ人間観であるところが社会学の特徴と考える。無意識に着目すべきと言うのはその通りだと思うが, 意図的な改善にも向かわせたいという意図もあった。